



# 会 報

第10号

昭和62年3月

社団法人 北海道美術館協力会  
札幌市中央区北1条西17丁目 電話011-644-4025



## 募金活動はじまる 幅広い小口募金こそが原点

前号でご報告した協力会の特別記念事業「北海道に名画を贈る道民の会」の募金活動が正月明けから始まりました。まだ助走段階ですが、武井会長はじめ各実行委員（協力会の理事が中心）は、本業の寸暇を割いて各方面へ協力を要請中です。

選挙を控えたこの時期に、幸いにもお願い先の反応は大変暖かく好意的です。当会の全国にも例のないユニークな文化活動が、厳しい世相の中で認められ、激励されるのはうれしいことです。ただ、現状はなんといっても人手不足。会の役員が走り回るだけではおのずから限度があることを痛感いたします。全道いたるところの職場で、町内で、グループで話題となり、`私たちの手で名画を、の協力の輪がひろがることを念願してやみません。

ところで協力会会員の皆様には先日、協力をお願いして一口、100円の募金用紙を郵送させていただきました。気のおけない、ごく手近なところから活用していただければ幸いです。最近、洞爺村の会員、高橋道さんから事務局にうれしい便りがありました。人口二千二百の同村ですでに八百人余の署名と募金を勧誘されたとのこと。これこそ協力会が提唱するボランティア募金の典型だと一同感激した次第です。

実行委員会では今さまざまな組織やルートを通じて訴えを全道的に幅広く伝達することに努力中です。重ねて特段のご協力を切望いたします。

北海道美術館協力会理事・事業部長  
建部直文

## 札幌街観



武田 厚  
(道立近代美術館学芸部長)

20年近くも前、札幌にはじめて来た時、北一条通りの道幅の広さと並木の美しさと、大通公園のエキゾチックな風物にひどく感激したのをよく覚えている。それに空が高く青々と晴れわたり、白い雲が軽々と飛んでいるのも印象的だった。一言で云えば爽やかな天地というものだった。西洋画の遠近法がどこを向いても見た方向にそのままあった。道行く人はまさに点景でしかなく、街景はどこまでも透明だった。

今でも札幌の街は美しいと感じている。具体的にその美しさの要因を示すことはできないが、未だに広々としたさわやかさが残っているせいではないだろうか。

しかし一方、ビルも舗装も年々新しくなり、立派になってきてはいるが、欧米の街づくりとちがってあまり計画的でないのが残念だ。従って街並の美観という点ではいま一步である。都市計画ということについて我々は認識がうすいのかも知れない。わが家についてはあれこれとどの程関心をもつが、都市計画となると他人ごとになってしまうきらいがある。

札幌の建築規制については詳しくないが、素人目で見ても、建物の方向、位置、材料、色彩、看板など勝手気ままみたいである。つまり各々に個別な特色はあるが、全体としてはまるで調和をとろうとしていない。“全体として”というのは云わば共用あるいは共有の部分を目指すのであって、そこに目を向けることを我々は最も苦手としている向きもある。個が確立した社会でなければ、“全体”に対して興味を示したり、示す義務を認識したりできないのだろうか。

遺感ついでにもう一つ。暮のホワイトイルミネーションと、その脇で相も変わらず舞い上る粉じんとアンバランスはどうだろう。いずれも一過性の現象ではあるが、この二つが何の脈絡もなく毎年くり返されるという恐さを何となく予兆する。

美観の原点は何といっても調和にある。それを見通すバランス人間に、都市化するすむ札幌の街をデザインしてもらいたい気がする。

## 日勝の絵



中西章一  
(法人会員 55歳)

常設展示場にある神田日勝の作品には参る。他の多くの絵画にはそんな構えもなく観賞出来るのに、日勝の絵だけはどうも弱い。

多分、これは日勝と私がほとんど同世代なのに彼は若くしてあれだけの仕事をやってのけ、十勝の奥で土にまみれつつ35歳で逝ったという劇的生涯に比べ、私は一体何をやって来たのだという自己嫌悪を誘発させそれが圧迫感になるのだと思う。だから日勝の絵の前では、出来の悪い子が教師に接するが如くに固くなり、それから脱却したいばかりにこれ又出来の悪い子でなければ考えられぬとんでもない発想をする。

昭和45年の「室内風景」はもとよりその2年前の「室内風景」や「壁と顔」或いは同44年の「ヘイと人」いずれにも新聞紙が描かれ、それには必ず自動車の広告が顔を出す。しかも観賞者の視点をかなり引きつける位置に。

若いころ私は恋人に振られた。そのあと“今に見てろ。最高級外車に絶世の美女を乗せてあの女の目の前を通り過ぎてやる。悔しがらぞ”なんて誠に低俗お粗末な夢見をして溜飲を下げていた。(実際には中古スクーターに平均的の女房を乗せる結果となったが)まさか日勝が私の如き低劣発想をする訳もないが、これ程に自動車の広告を描く理由は矢張り都会を象徴する車に憧れた若き日々があったに相違ない。その点ではオレと共通だ。いやお笑いなさるな。そうでも考えないと日勝の絵の前に立てないのだ、生きていたら彼は今年50歳。



神田日勝「室内風景」(1968)

## 元氣印・小樽

佐藤 幸子  
(個人会員)



札幌の近代美術館はボランティアが解説員であるが、ルーブル美術館はエコール・ルーブルという美術学校を持って、その卒業生を解説員としている。フランスのボランティアは商工会議所主催のフランス語講座の教師とか、地方の町の案内などで活躍する。フランスの中小都市はどこでもそういうシステムを持っている。翻って、我が小樽のことを考えるに、この街は迷路の如く分りにくい。函館市は案内板があり、池田町はボランティアが案内してくれる。私は10年前前から言っているが、小樽市はいまだ惰眠を貪り続け、駅前にはただ一枚の南北逆の地図があるのみで、旅行者は無宿渡世人よろしく風の吹くまま、気のむくまま流離わなければならない。人口は日毎に減少しており、小樽を愛してテレビドラマや小説の舞台に取り上げてくれるが、「幻の…」などと今にも消えていきそうな作品ばかりである。作家M氏も小樽を舞台としたが、生きの悪い登場人物達、暗い雰囲気で見光案内小説版という役割は果たしてくれたが、買う気にはならなかった。されどされど私はまだ絶望していない。失望はしても絶望はしていない。幸いにして最近の小樽は神社などで国際音楽祭を開いたり、ダニーデンと姉妹都市になったり、世界と繋がりを持つ様になってきている。私達は古い歴史を持つ中都市に住みながらも、幻の町となることなく、今はやりのいやらしい言葉を使うならば、「元氣印」で潑刺と生きていきたいものである。



小樽の街

## ある日のできごと

木路 紀代美  
(ボランティア会員)



○月○日○曜日

その日はぐづつき模様の寒い日でございました。来館者はまばらで売店にまで立寄って下さる方はほとんど居りませんでした。

ぼんやりとロビーの方に目をやっていたら、一人の美しいお嬢さんが売店にススッと寄ってまいりました。その後を追うように中年の男性がこちらにやってきました。お嬢さんは、ショウケースをのぞく仕草にも落ち着きがございませんでした。「どうかされましたか。」と私は心配になりお嬢さんに声をかけました。すると、震えるような小さな声で「見知らぬ男性にしつこくつきまわられて困っています。」と、今にも泣き出しそうでした。これは明らかにただ事ではありません。何とかしなければ…。助けを大声で呼ぶわけにもいかず私は、精一杯のこわい顔をして、その男性をニラミつけるだけでございました。そのニラミがきいたのでしょうか、男性はその場を立ち去って行きました。お嬢さんを守ってあげることができた。私の死ぬ程の戦いも、よそ目にはおわかりいただけなかったでしょうが、そんな自負をもった一日でございました。「ありがとうございました。」お嬢さんの声は今でも私の耳にございます。

ボランティアとして美術館の売店に立って6年、いろいろなお客様に接する機会を得ました。妻の誕生日にと花香炉をもとめられたもの静かな初老の紳士、美術館売店のお客様にふさわしいものでございます。楽しそうに仲間と絵葉書を買われた修学旅行の学生さんは、美術館の未来を明るくするものでございます。



一階売店

第2回国内ツアー 61.10.29~11.1 3泊4日

飛鳥・斑鳩の里、神戸 参加者 46名

## 飛鳥の石造物

齊藤 武



正倉院の御物や、斑鳩・奈良の代表的寺院の由緒ある美術品を拝観する日程の中に、国立飛鳥資料館を中心とする飛鳥めぐりを組み入れたのはよい計画であったと思う。

石舞台古墳をはじめ、益田の岩船、酒船石、鬼の俎、鬼の厠など用途不明の巨大石造物群、また、石人像、二面石、猿石など素朴でユーモラスな、しかし逞しさに満ちた、異質の一連の彫刻には、何とも言えぬ親しみをおぼえた。七世紀の作というが、他に類型はあるのだろうか、誰の作なのだろうか、あるいは中国または韓国との交流の一端かな、など古代の夢をたのしむ一日であった。

同行の美術館奥岡課長から簡潔で要を得た資料をいただき、現場でポイント解説をうけることのできたのは協力会企画のお蔭と思っている。参加の方々の温かい雰囲気につつまれた楽しい旅であった。

## 旅は教師

小林 金三



奇妙ないい方だけれど、「歴史が狭くなったなあ」が第一印象だった。歴史的建造物、そこに蔵される古仏像などのおのずからにじみ出すものに全体が包まれていた「古都・奈良」が、押し寄せる都市化の波で、古きものを「奈良の一部」に閉じ込めてしまった。東大寺や法隆寺の境内には初めて古都を感じ、正倉院や博物館で初めて古美術を見ることになり、かつての飛鳥の里、斑鳩の里に里のたたずまいは稀薄だった。

特色のあった地域社会が、のっぺらぼうの均一化に犯されてゆく姿は、文化をないがしろにしている現代日本の政治（主として土地政策）のせいに違いない。が、それにしても余りにも痛々しい。

ひるがえって北海道とりわけ札幌をみると、最大の財産である自然を急速に遠去けつつある。都市のなかに自然を内包することに意識的に努めなければ、奈良を笑うことはできない。このたびもまた、旅は教師であった。



飛鳥・斑鳩の里 美術の旅 於 石舞台 S61.10.31

## 61年度事業の推進状況

### ○会員のつどい

4回目の催が12月3日道立近代美術館において226名(会員188名、作家15名、美術館関係者等23名)の参加者を迎え盛大に行われました。

まず、17時20分から芥川賞作家高橋揆一郎氏の特別講演があり、満席の聴講者に大きな感銘と示唆を与えました。

次に、16時30分から道立近代美術館長植村 敏氏の協力会に対する感謝と激励の言葉、乾杯の音頭があり、パーティーに入りました。宴席では各所に人の輪ができ、会員の交流が盛んに行なわれました。

19時からは、会員待望の「お楽しみ抽選会」に入り、約50名の方が幸運に恵まれました。そして、20時には明年の再会を期して散会しました。

近代美術館、作家諸先生並びに取引企業等の皆様に厚くお礼申し上げます。



賑わいのパーティー会場

### ○第3回国内美術研修旅行

62年3月4日から8日まで4泊5日「梅の九州・美術の旅」が催行されました。視察個所は、太宰府天満宮及び福岡市・有田陶磁・長崎県立・熊本県立の各美術館です。

コーディネーターには、近代美術館 鈴木学芸第二課長の同行があり、18名の少人数でしたが、実り多い快適な旅となりました。

### ○移動売店

道立近代美術館の「北海道の美術'87展—イメージ響—」巡回展の開催に合わせて協力会売店を開設しました。

#### 1. 開催期日・場所

3月5日～3月10日 音更町

3月13日～3月18日 阿寒町

3月21日～3月26日 北見市

#### 2. 販売商品

絵はがき(20種)、額絵(4種)、図録(9種)、額縁(絵はがき入れ1種)。



音更文化センターに於て

## お知らせ

### ○事務局の移転

61年12月25日 3階事務室から2階(エレベータホール 間仕切り)に移り独立しました。ご来館の際は気軽に立ち寄り下さい。

### ○会員証の利用

個人会員証は、「本人と同伴者1名」に限り利用できることにしておりますが、最近他人に貸す方が見受けられますのでこのようなことのないようお願いいたします。

### ○近代美術館食堂の利用

会報9号でお知らせしたところですが、そのご、全商品について2割引が受けられますので、ご利用の際には会員証をご提示下さい。

# 新入会員紹介 (61.11.1~62.2.28)

◆個人会員 (63名)		
加入年月	氏名	住所
61.11	紙谷 雅子	札幌市中央区大通西18-2-8-402
61.11	田 弘子	白石区平和通15丁目北4-11
61.11	梁井 律子	山越郡八雲町末広町184裁判所宿舍
61.11	岩田 茂子	札幌市中央区北6条西17丁目
61.11	川村ひろみ	西区西野6条1丁目6-15
61.11	高橋 恵美	豊平区美園4条1丁目2-18
61.11	山名 和子	中央区南5条西11丁目 コーポ5条
61.11	久須美敬子	中央区大通西16丁目
61.11	森田 みや	北区屯田2条4丁目10-27
61.11	高梨 幸雄	江別市野幌代々木町51-16
61.11	宮原 寧子	札幌市西区手稲金山67-36
61.11	木村 泰子	白石区厚別東4-8-8-5
61.11	浦田 久	北区北23条西8丁目
61.11	西野 明美	豊平区美園9条5丁目4-16
61.12	西角 敦子	西区山の手5条3-1-1 山幸ハイツ103
61.12	徳田 久子	東区丘珠467-154
61.12	田中 溪子	豊平区月寒東3条19丁目 14-29
61.12	須田 明美	中央区南13条西1丁目3-20 1201
61.12	弘瀬 節子	北区北31条西11丁目173-4 北斗シテイA312
61.12	魚住千津子	白石区中央2条2丁目1-37
61.12	新木 葉子	東区北20条東5丁目
61.12	斎藤 和夫	豊平区西岡5条12丁目16-16
61.12	上野 禎子	北区北7条西6丁目 札幌中央パーク1105
61.12	内田 貞子	西区発寒6条13丁目2-1
61.12	岡田 ヒロ	南区真駒内泉町3丁目10-2
61.12	佐藤由紀子	南区真駒内緑町 3-2-3-303
61.12	宮下健二郎	東区北22条東1丁目
61.12	増田 喜代	中央区南4条西25丁目
61.12	水上 哲子	白石区本通13丁目北1-17
61.12	星 綾子	白石区北郷1条6丁目 3番6号
61.12	米沢 みつ	白石区青葉町4丁目9-14
61.12	内山 栄子	中央区宮ヶ丘474-25 シテイハウス401号
61.12	菅 康子	北区麻生町2丁目1-6
61.12	白石 コウ	広島町広葉町4丁目4-3
61.12	長谷川ひろみ	札幌市中央区南16条西10丁目
61.12	山田 礼子	南区南9条西9丁目3番28号
61.12	野口 颯子	小樽市稲穂2-22-501

加入年月	氏名	住所
61.12	竹内 宏二	札幌市中央区北1条西18丁目
61.12	田中 洋子	西区24軒1条6丁目 1-3-402
61.12	福島美智子	中央区宮の森3条9丁目
61.12	中山 典子	豊平区北野4条5丁目2-35
61.12	名護屋都紀	中央区南3条西26丁目
61.12	清田 信子	小樽市桜2-30-10
61.12	三上 正一	千歳市北栄2丁目11-31-304
62.1	菅井 盈	札幌市豊平区平岸4-10-8-23
62.1	定広 武	北区北19条東1丁目
62.1	小田原幸美子	中央区南16条西17丁目
62.1	中村 洋子	中央区南7条西17丁目
62.1	小林 和子	中央区南19条西7丁目
62.1	三野 明美	中央区南15条西17丁目
62.1	高田 照市	南区真駒内南町1丁目3-1
62.1	川浪 正喜	南区澄川4条7丁目9-8
62.1	村井 鈇男	中央区南10条西18丁目 1-3-406
62.1	米澤悟空翁	中央区大通西21丁目
62.1	橋本 千枝	白石区厚別中央2条5丁目 2-1-301
62.1	森 純子	中央区南9条西4丁目 7-1-503
62.1	富樫せい子	東区北18条東7丁目
62.2	吉井 慎一	豊平区中の島1条3丁目
62.2	河村 有美	中央区南3条西7丁目
62.2	辻 恵子	北区新川3条10丁目3-7
62.2	岩田 徳子	中央区南13条西1丁目 3-25-811号
62.2	八島悌二郎	白石区南郷通り2丁目北 28-3-606
62.22	岩倉 妙子	中央区南30条西10丁目

◆賛助会員 (12名)		
加入年月	氏名	住所
61.11	横幕 千綾	北星女子高校
61.11	畑中 則子	総合美術専門学校
61.11	山谷 美紀	道薬科大学
61.11	林 美希	道立衛生学院
61.12	武石 美樹	札幌大付属衛生医療短大
61.12	佐々木 寛	札幌白石高校
61.12	菅原 基泰	札幌厚別高校
61.12	田原 里美	日本ビジネス総合専門学院
62.2	篠原 泰子	藤女子大学
62.2	桜井 義秀	北海道大学
62.2	川端梨津子	札幌平岸高校
62.2	東海林真理	大谷短大

# 国内旅行記.....海外旅行記

## 正倉院展を観て

岩山 緑



私が初めて正倉院の宝物に出会ったのは、NHKの日曜美術館でした。千二百年余を経た今日も華麗な姿をとどめており、その素晴らしさに感動させられました。その日以来、一度は拝観したいと思っていました。そんな時、飛鳥・斑鳥の里「美術の旅」の企画を知り、嬉しくなり早速参加した次第です。楽しみにしていた正倉院展は期待を棄切ることなく、工芸品として技術の粋を尽くした天平美の真髄を知らせてくれる、「玳瑁螺鈿八角箱」を始めそれはもう素晴らしい品々ばかり。中でも「赤漆文榎木御厨子」は自然のままの木目文様の美しさを生かした、洗練された美的感覚に、工人の水準の高さを知る思いです。正倉院宝物にひかれるのは、このようなロマンが秘められているからなのでしょう。回を重ねるたびに盛況を増すのは当然のことなのでしょう。次回も是非おとずれたいものです。最後にこの旅で素敵なお友達に巡り会えたことも忘れられない思い出です。



玳瑁螺鈿八角箱（らでんかざりの箱）



高松塚古墳壁画（女子群像）

第7回海外ツアー 61.11.18~29 12日間

フランス（ニース・マルセイユ・ア  
ビニヨン・パリ） 参加者 57名

## 南仏・パリ 寸描

谷 貴子（団長）



ふりむくと、迫るように威厳にみちたジュピターの坐像が、仄暗い壁面にある。アングルの「ジュピターとテティス」（1811）を此所に見ようとは。白くしなやかなテティスの左手がジュピターの髭のあたりに伸び、直線的で量感にみちた暗色の最高神と、見事な対比を見せている。

旅から戻り、画集を見直すと、確かにエクス・アン・プロヴァンスのグラネ美術館蔵となっている。グラネとアングルは、共にダヴィッドを師とし、ローマ賞を受賞して、十数年をイタリアに学び、帰国後、アングルは美術界の指導者として君臨し、グラネは美術行政官、画家として活躍した。グラネ美術館は彼の遺贈になるものである。

旅は、思いがけない発見の連続であった。60人の師を得て、多く教えていただいた。60人の友を得て、楽しい旅をした。あの作品、この風景が、人の顔と重なり、キラキラ輝いて思い出されるのである。

## 美の探訪フランス小唄

（ラバウル小唄の替え歌で…）

山田 武雄



1. コート ダジュールよマルセイユ  
オレンジレットにホワイトロック  
マーリンブルーにマストがゆれる  
想ひ遥かに 地中海
2. ゴッホのアビニヨン アルルの女  
飲んで語るよ 真赤な酒を  
共に歩るいた石畳  
枯葉 舞ひ散るピオの道
3. さらばフランスよ又来る迄は  
しばし別れの 泪がうるむ  
友の願ひは 美の探究  
ビーナスモナリザ さよふなら

## プロヴァンスの空

西尾 圓 壽



南フランスには何かがある。それを解決することが、この旅行参加の目的でした。今一つ満足出来ずにコートダジュールを後にした時は、何か残念の想いでした。

然しローヌ川を北上し、アルルに近付いて、その気持は一遍に吹き飛びました。ゴッホの「オーヴェルの教会」の空が其処にありました。澄み切った空気が作る深い海の様な濃紺は、その中へ落込んで行きそうな感じさえ与えていました。勿論空気の澄んでいる北海道でも同緯度の名寄以北ならば同じ色を見ることも出来るかも知れません。然し北海道の冬の清純な白と対比した時凡ての色は黒又は灰色にされてしまいます。プロヴァンスは地上に草の緑、小麦畑の黄色が鮮明な色彩の調和を見せてくれています。これが南フランスの画家達の色の秘密かも知れない。私にとって美術に興味を持ってからの40年間で最大の体験の一つになりました。



天野学芸員の解説—レジェ美術館にて—

## アヴィニヨン断章

高橋 道



- メルヘン権威一望にしてロシュ・デ・ドンの丘より見下ろすアヴィニヨンの街
- 旅を来てローヌに余光映しつつプロヴァンスの陽没りゆくに会う
- 高き橋いづれを水は走りしや背をかがめ行くその冥き跡
- 巨大なる水道橋の上に立ちし友等もありて宙に風なし
- ボン・デュ・ガル登りて水路たどりつつ謎は謎とし時空に遊ぶ
- ボン・デュ・ガルの給水路跡くぐり抜け戻ればすでにアヴィニヨンなつかし
- 同じ汗流せし友等と小さき店見つけてみやげのいくつか購う
- 旅にある充足ならん落葉舞うアヴィニヨン広場の熱きコーヒー
- 灯は入りて回転木馬のまわり初む若き親子の一組乗りて
- プラタナスの大き落葉の走る音それのみ顕せた木馬はまわる



マルセーユの旧港



晩秋のヨーロッパ美術の旅 於アビニヨンの橋 S 61. 11. 23



## 北海道立近代美術館

### 新収蔵品展

4月1日(水)～6月3日(水)

道立近代美術館の昭和61年度の新収蔵作品は、油彩17点、水彩・素描34点、版画164点、彫刻2点、工芸38点の計255点。これらの作品を加え、所蔵作品の総数は2,473点となりました。

この1年間に集められた作品は当館の収集方針に基づき、エコール・ド・パリ、ガラス、北海道関係作家の作品など、それぞれの分野の代表的な作品です。

中でも、ガレの「ガラス工場風景文花器」は、三層の色被せガラスにエッチングで働く職人の姿を浮彫りにした非常に珍しい作品で、当館のガラスコレクションの核となる逸品です。ガラス作品としては、このほかドーム、ウジェーヌ・ルソーなどの作品に加え、一昨年開催した「第2回世界現代ガラス展」の出品作34点がまとめて収蔵されました。

エコール・ド・パリの作品では、パスキンの300号の大作「放蕩息子」、パール・クロウグの「ローブをまとい

たテレーズ」など。パスキンの版画102点も、彼の優れた素描力がうかがえる貴重なコレクションです。

木田金次郎「バラの花」、上野山清貢「赤衣の少女」、久保守「リュートのある室内」、本田明二「黒い首」など、北海道ゆかりの作家達の作品も一層充実しました。北岡文雄の木版画53点、高橋北修の素描34点も興味深い作品群です。

毎年、年度当初に開催される新収蔵品展。今回はこれらの作品を中心に、当館の収集活動の概要を紹介します。



ガレ・ガラス工場風景文花器 1900年

## 北海道立旭川美術館

### 「イメージ・響」北海道の美術'87

4月4日(土)～5月5日(火)

この展覧会は、毎年異なるテーマを設定し、作家選定委員会によって選ばれた道内在住作家たちが新作を制作して腕を競う内容のもので、旭川美術館では4回目の開催です。今年は「イメージ・響」をテーマとして、78人の各分野の作家が出品しました。

毎年、賞審査委員会によって受賞作が決められており、北海道立近代美術館賞に国松明日香、優秀賞に瀬戸英樹、新人賞に福井路可が決定しました。国松明日香(白老在住)の作品は鉄を素材として、すぐれた立体構成の中に自然の響きを感じさせる秀作です。瀬戸英樹(函館在住)の作品は精緻な構成による画面が展開され、福井路可(室蘭在住)の作品ではダイナミックで新鮮な活力をうかがうことができます。

今回の展覧会では、例年より立体作品が多様化し、映像作品が多いのも特色です。若手作家も多く出品してお

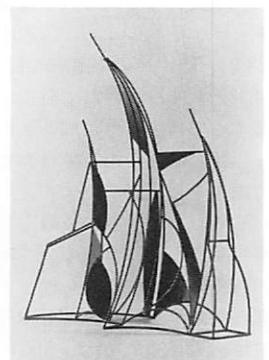
り、各作家のすぐれた個性がぶっかり合う見ごたえのある内容となっております。ぜひご鑑賞下さい。



優秀賞 瀬戸 英樹  
「枯れた大地」



新人賞 福井 路可  
「地 響」



北海道立近代美術館賞  
国松明日香「風」

## 北海道立三岸好太郎美術館

### 三岸作品、再び海外へ

昨年の12月10日から今年の3月2日まで、パリのボンビドー・センターで開かれた「前衛芸術の日本展」(同センター、国際交流基金の共催による)に、三岸好太郎の作品が6点出品され、うち4点が当館から貸し出されました。一昨年にヴェネツィアとケルンで開かれた「日本近代洋画展」(「マリオネット」を出品)につづく二度目の海外出品です。

当館から出品されたのは、「花」(おぼけの花・1933年)、「海と射光」「旅愁」「蛾」(筆彩素描集より・1934年)の4点で、このほか宮城県美術館蔵「オーケストラ」(1933年)、福岡市美術館蔵「海と射光」(油彩・1934年)が出品されました。

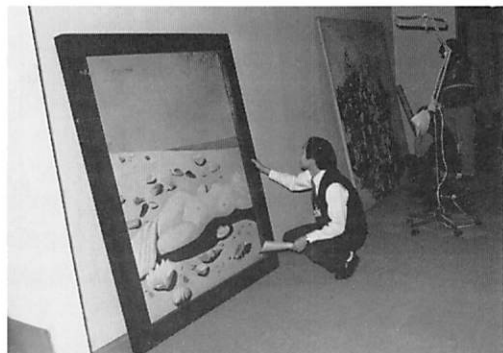
また、今回は貸し出しにあたって当館の井上学芸員がクーリエとして同行し、ボンビドー・センターでの作品開梱と点検に立ち会いました。

### 特別展示「金魚」(2月1日～3月29日)

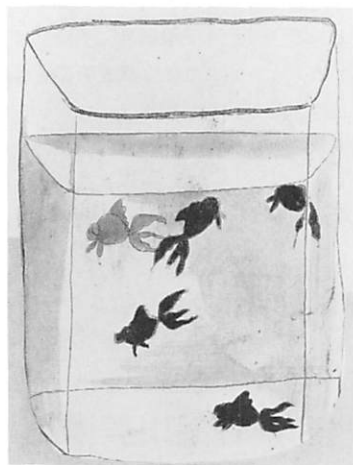
昨年夏、「女の顔(絶筆)」ほか2点が特別展示されて好評でしたが、今回は「金魚」(1933年・札幌市・橋本誠二氏蔵)が2月1日から公開されています。札幌では久びさの展観となります。

独得のひっかき線によって黒い金魚と金魚鉢を描いたこの作品は、1933年に結成された北海道独立美術作家協会の第1回展に当館所蔵の「見物客」とともに賛助出品されたものです。

なお、常設展は今年度第4期「詩と絵画」が行なわれています。(3月29日まで)



ボンビドー・センターでの作品点検(11月22日)  
作品は「海と射光」(福岡市美術館蔵)



特別展示「金魚」(1933年)

## 財団法人札幌彫刻美術館

### 第3回本郷新賞

彫刻が町並みや公園などの公共空間に設置され、市民に親しまれるようになったのはいつ頃からでしょうか。

札幌出身の彫刻家故本郷新の作品は、札幌市内にとどまらず、函館の「石川啄木座像」あるいは稚内の「氷雪の門」、鹿児島島の「太陽の賛歌」など全国各地にモニュマンとして設置されています。彫刻家本郷新の作品を理解するには、野外彫刻を無視することはできません。

当館では、この特徴をふまえ道内各地の野外彫刻の実態調査を実施しています。そして、本郷新の半世紀にわたる彫刻家としての業績を記念し、また彫刻芸術振興に寄与するため、全国の公共空間にモニュマンとして設置された野外彫刻に賞を贈呈する「本郷新賞」を昭和58年度に創設し、隔年で贈呈式を実施しています。昭和62年度は、第3回にあたり8月に贈呈式およびその関係展を開催いたします。関係展では、第3回本郷新賞受賞作品の写真パネル及び受賞者の作品等を展示します。

特別展期間中も、記念館では本郷新の常設展を開催しています。また、常設展も年2回展示替を実施していますので、以前展示されていなかった作品に出会えるかもしれません。



第2回本郷新賞受賞

「水の広場」(名古屋市)環境造形Q制作